

「俳句とコピーライティング」の教材開発 — 課題「俳句創作と句集の装丁」 —

柴田奈美

はじめに

平成18年度に岡山県立大学短期大学部が廃止となり、「文学」「日本語表現」を主要担当科目とする私は、岡山県立大学デザイン学部造形デザイン学科の所属となった。言語表現を専門とする立場から、どのようにデザイン学部の教育にかかわっていくかが、当面の課題である。

デザイン学部造形デザイン学科は、教育目標を「幅広い教養に裏打ちされた人間性、美をみきわめる感性、創造的な思考力を身につけ、意欲的に造形表現に取り組む姿勢を涵養する」ことに置き、「具体的に以下の能力を造形デザイン力として身につける」としている。

- 1) 課題発見力：文化、歴史、思想、理論等を資源として吸収し、実社会にデザインの課題をみいだす能力
 - 2) 造形力：表現対象の理解と素材及び道具の技術取得を通じて、これらを造形に生かす能力
 - 3) デザイン創造力：課題解決策としてのアイデアを不断に生み出し、総合的に計画、表現できる能力
 - 4) コミュニケーション力：伝達すべき適切な対象や環境を選び、主体的に提案ができるコミュニケーション能力
 - 5) 人間力：幅広い教養と豊かな感受性をもって人間性を育み、課題発見及び解決に積極的に取り組む能力
- 以上のような「教育目標」を踏まえて、平成19年度より、新規授業「俳句とコピーライティング」を開講した（造形デザイン学科学生に共通の基礎教育科目。授業方法は「演習」。開講年次は2年後期。開講単位数は1単位、受講人数は27名である）。本稿は、この授業の実践記録と、それに考察を加えたものである。

1. 授業の到達目標、および授業内容

授業担当者の専門「俳句研究・俳句創作」を基盤として、コピーライティングに必要な豊かな感性と語彙力、表現力を身につけさせることを目標とし、次の3点を「授業の到達目標」としてシラバスに示した。

- ① コピーライティングの必要性を理解する。
- ② 俳句の鑑賞と創作を通して語彙を増やし、豊かな感性と表現力を身につける。
- ③ 言語表現に興味を持ち、積極的に創作を行う。

この目標を到達するために、言語表現だけでなく、「句集の装丁」（表紙と帯のみ）を制作課題とし、学生の意欲を抱かせるように工夫した。

15回の授業内容とスケジュールは、以下の通りである。

- ① オリエンテーション
コピーライティングの必要性
俳句とコピーライティング
- ② 俳句の構造 (1) 「切れ」の構造
- ③ 俳句の構造 (2) モンタージュ理論
- ④ 俳句と季語・歳時記
- ⑤ 俳句のリズムとコピー
- ⑥ 俳句の発想の新しさとコピー (1) ありきたりな句にしないために
- ⑦ 俳句の発想の新しさとコピー (2) 比喩表現・オノマトペ
- ⑧ 推敲の仕方
- ⑨ 課題制作のための解説
- ⑩ 課題制作 (1)
- ⑪ 課題制作 (2)
- ⑫ 課題制作 (3)
- ⑬ 作品のプレゼンテーション (1)
- ⑭ 作品のプレゼンテーション (2)
- ⑮ まとめと試験

上記の②～⑨では毎回重要季語の解説をし、その季語を用いた俳句を2句～5句作らせて提出させた。次回に優秀作品を提示し、さらに添削を板書によって行った。提出作品にはそれぞれ添削を施し、良い作品には◎や○の印を付けて返却した。

各自作品を作りためて、装丁とともに「自選10句」を提出するように指示し、創作意欲を喚起した。装丁については、次の4点を条件として示した。

- ① 従来の装丁の発想に縛られることなく、自由に創れば良いこと。制作方法は写真・手描き・パソコン等自由であること。
- ② 自選10句の雰囲気統一する魅力的な「題」を考えて、句と題名にふさわしい装丁にすること。
- ③ 思わず手に取って句集を読みたくするような帯文にすること。
- ④ A4縦長のサイズに統一すること。

課題作品は授業中に発表させて評価を行ったが、学生の意欲を喚起するために、翌年に展示ホールに展示することを予告。平成20年5月19日から23日まで展示を行った。

2. 学生作品

学生には制作物とともに、「句集名選択の理由」「作品のイメージ」「帯文（キャッチコピー）」を提出するように指示した。次に、学生の提出した上記の3点と俳句作品〈抄出〉を2例示す。

① 岩田梨紗「坂の道」(図1)

〈句集名選択の理由〉

物語感のある雰囲気にしたかったため。

〈作品のイメージ〉

情景の向こう側に見える自分なりの世界

〈帯文（キャッチコピー）〉

(代表句) 涙目に向日葵笑う坂の道

上った先が見えないのが坂の道である。だからこそ上ってみたいくなる。

そこには、新たな発見・物語・世界があるかもしれない。そういう坂の道のように、この句集は眠っていた何かを見つけ出してくれる。

〈代表句〉(抄出)

ストレスやもやりもやりといわし雲

末枯れや止まりしままの腕時計

海原に船消えゆくや山眠る

こつこつと重ねる努力つららかな

公園の椅子に置かれし手袋よ

試験中おもわぬひらめき帰り花

装丁は、弓なりの鈴蘭の葉を坂道になぞらえ、その上を天道虫が這っている様子を描いたもの。余白を生かし、すっきりとした画面構成である。俳句はドラマ性のある内容で、映像的である。帯文にある「新たな発見・物語・世界」が具体的に表現できている。

② 横山桃子「鼻小僧」(図2)

〈帯文（キャッチコピー）〉

(代表句) 鼻小僧マスクの裏になに隠す

俳句界に新しい風を巻き起こす。

楽しい笑いでおなかいっぱいになる、そんな句集です。

マスクの裏に隠された鼻小僧をのぞいてみよう。

〈代表句〉(抄出)

マスクして隠す私の鼻小僧

大根にかぶりつきたる寒さかな

ねこよりもくまってみる蒲団かな

嚏して吹きとばしたいこの寒さ

人參と恋や夕陽に染まりけり

泣いた顔見せたくないの雪催

装丁では、題名の「鼻小僧」が絵文字のようになっている。また帯の部分マスクになっており、楽しい画面を創り出している。俳句は「鼻小僧」「かぶりつきたる」

など俗語を用い、楽しく明るい雰囲気を出している。装丁と俳句の内容とが合致した作品という点で評価できる。

3. 考察と今後の課題

句集の装丁を行い、展示を行うと予告したために、学生は意欲を持って取り組めた。季語に興味を抱き、「末枯れ」「虎落笛」等の学生にとっては目新しい季語を、積極的に使いこなそうという態度が見られた。授業時間外にも歳時記を読んだり、俳句を作ったりする学生も少なからずおり、言語表現への意欲づけは大方達成できたと考える。

問題点は、第一に「自選10句の雰囲気を統一するような『題』とそれと融合するような装丁」と指示を出したにもかかわらず、俳句の内容と装丁に統一性のない作品が少なからずあったことである。表現したい装丁の図柄があり、それに合致した作品が作れなかったためであろう。まず俳句を作り、それに相応しい装丁を作ることを強調する必要がある。

第二に、課題制作途中での個別アドバイスができなかったことである。帯文の添削や代表句選出のアドバイスもできなかった。授業のスケジュールを考え直さなければならぬであろう。

第三に、1人当たりのプレゼンテーションの時間が3分間と短すぎ、学生の相互批判が行えなかったことである。1人当たり5分間以上とり、相互批判によって有意義な刺激を学生に与えたい。

第四に、コピーそのものの作成練習ができなかったことである。これは3年前期に開講する演習「デザイナーのための文章表現」とうまく連動させることにより、解決していきたい。

今後はさらに私自身の俳句鑑賞能力、添削指導能力を高め、全体的に深みのある授業内容を目指していきたい。

展示の際には、桑野哲夫先生に懇切なアドバイスを賜った。記して御礼申し上げる。

*「俳句とコピーライティング」の教材開発 - 課題「俳句創作と句集の装丁」 - 柴田奈美

坂の道

岩田梨紗

涙目に

向日葵笑う

坂の道

『坂の道』

上つた先が見えないのが坂の道である。だからこそ上つてみたくなる。そこには新たな発見・物語・世界があるかもしれない。そついう坂の道のように、この句集はねむっていた何かを見つけて出してくれる。

森山 水

(図 1)

坂の道

岩田梨紗

ストレスやもやりもやりといわし雲

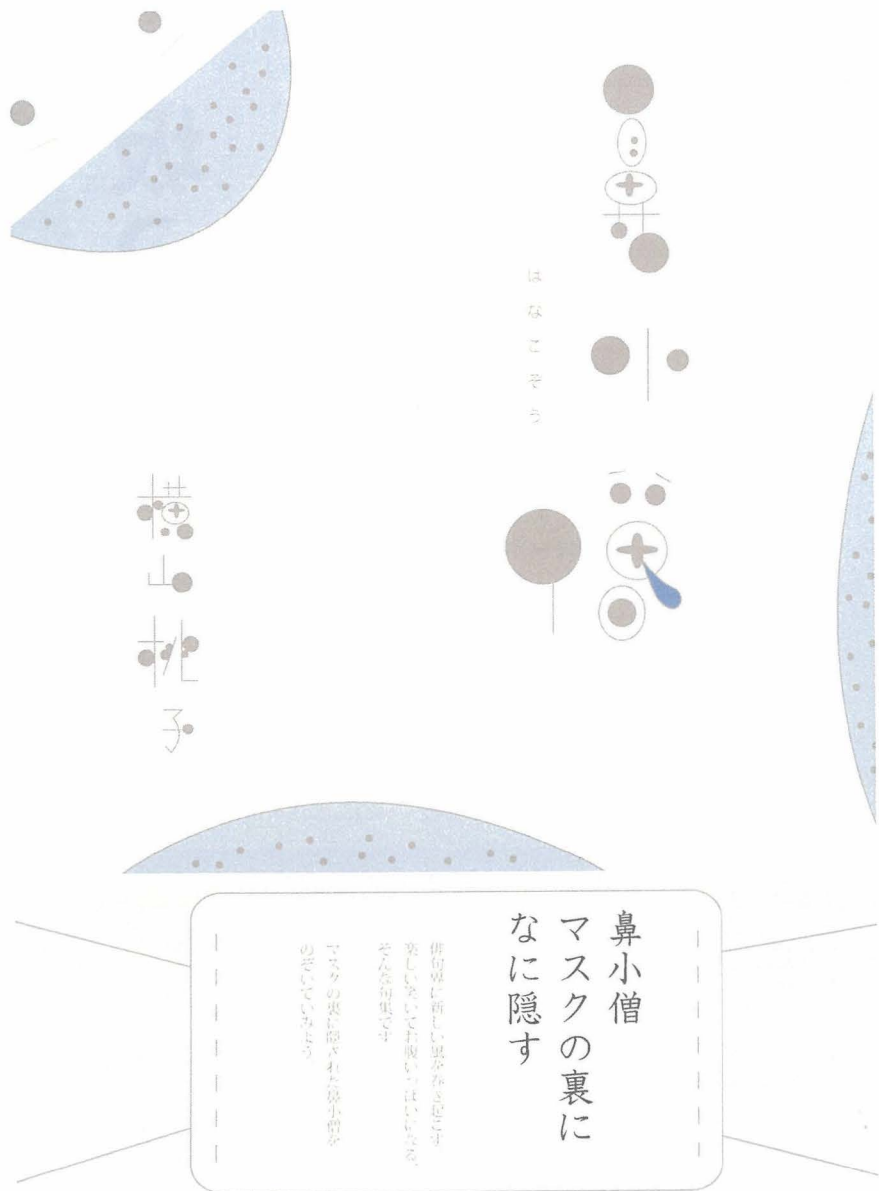
未枯れや止まりしままの腕時計

海原に船消えゆくや山眠る

こつこつと重ねる努力つららかな

公園の椅子に置かれし手袋よ

試験中おもわぬひらめき帰り花



(図 2)

鼻小僧

横山桃子

鼻小僧
マスクの裏に
なに隠す

俳句界に新しい風が春を告げ、
変じ笑ってお腹いっぱいになる
そなたを待集です

マスクの裏に隠された鼻小僧が
のぞいてみよう。

マスクして隠す私の鼻小僧
大根にかぶりつきたる寒さかな
ねこよりもくるまってみる蒲団かな
嚏して吹きとばしたいこの寒さ
人参と恋や夕陽に染まりけり
泣いた顔見せたくないの雪催

* 「俳句とコピーライティング」の教材開発 - 課題「俳句創作と句集の装丁」 - 柴田奈美